伸びる子どもに!!

－全国学力・学習状況調査の結果から－

【日々の授業改善に向けて】

平成２０年１月

長崎県検証改善委員会

長崎県教育委員会

目　　次

【先生方へ】 ―――― 1
〇授業改善にあたって
〇授業改善の取組を活性化させるために
〇学習習慣・生活習慣の確立に向けて

【国 語 科】
1　小学校国語科 ―――― 2
（1）課　題
（2）授業改善について
（3）知識や技能の習得
（4）活用する力の育成
（5）学ぶ意欲の向上

2　中学校国語科 ―――― 10
（1）課　題
（2）授業改善について
（3）知識や技能の習得
（4）活用する力の育成
（5）学ぶ意欲の向上

【算数科・数学科】
1　小学校算数科 ―――― 15
（1）課　題
（2）授業改善について
（3）知識や技能の習得
（4）活用する力の育成
（5）学ぶ意欲の向上

2　中学校数学科 ―――― 21
（1）課　題
（2）授業改善について
（3）知識や技能の習得
（4）活用する力の育成
（5）学ぶ意欲の向上

【学習習慣・生活習慣の確立に向けて】

表紙絵：作・佐々町立佐々小学校１年　中尾　心

（「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展　文部科学大臣賞受賞）

～ 先 生 方 へ ～

県教育委員会は、子どもたちの学力向上を目的として、これまで、学力の土台となる学習習慣・生活習慣の確立を目指した「子どもの学びの習慣化」、校内研修や授業づくりの充実を目指した「授業を磨く教師」、全教育活動の中で国語力の向上を目指した「国語力向上プラン」の３つのリーフレットを出しています。これらのリーフレットで提言したことに加え、本冊子では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に絞って、具体的な方策や視点を示しました。これまでのリーフレットと共に、本冊子を熟読され、日々の授業に積極的に取り組んでください。

＜授業改善にあたって＞

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた課題の把握と改善を

○課題の中から改善のポイントを示しています。

調査結果への対応だけでなく、日々の授業改善を

○日々の授業場面の中から改善のポイントを示しています。

今後求められる学力の要素の理解を

○「知識や技能の習得」「活用する力」「学ぶ意欲」の要素別に示しています。

子どもの9年間の学びの系統性を大切にした授業改善を

○小・中学校の系統性を踏まえて、教科別に示しています。

＜授業改善の取組を活性化させるために＞

学校全体で課題を共有し各教科で取り組むことを決めましょう

年間指導計画や日課の工夫など教育課程に反映させましょう

＜学習習慣・生活習慣の確立に向けて＞

「子どもの学びの習慣化」の指導と啓発を継続しましょう
・保護者への啓発ちらしとしても活用できるように作成しています。

【小学校国語科の課題】

主として「知識」に関する問題

全国学力・学習状況調査結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・叙述内容を分析し、内容を把握することができる。	第５・６学年　Ｃ読むことウ 第５・６学年　言語事項オ（ア）
・話の要点を聞き取り、効率よくメモをとることができる。	第３・４学年　Ａ話すこと・聞くことイ
・物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読むことができる。	第５・６学年　Ｃ読むことウ

主として「活用」に関する問題

全国学力・学習状況調査結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・書かれている内容について事実と感想、意見の関係を押さえ、事実を裏付ける理由や根拠を正しく読むことができる。	第５・６学年　Ｃ読むこと イ・エ・オ
・情報の中から必要な事柄を取り出し、表現様式に即してまとめることができる。	第５・６学年　Ｂ書くこと ウ 第５・６学年　Ｃ読むことイ・エ
・相手の立場や目的を考えて、敬意表現を適切に用いることができる。	第５・６学年　Ｂ書くことオ 第５・６学年　言語事項 ウ（エ）・カ（ア）

※課題となる顕著な項目を示したが、主として「活用」に関する問題は、全問（９問）とも国の平均を下回っている。特に、様々な文章や資料等をもとに自分の意見を述べたり、書いたりすることに課題がある。

県の基礎学力調査の課題との共通事項

・文や語句の係り受けや文章構成の工夫をとらえながら、叙述内容を把握し、分析して読む力が不十分である。（５・６年）
・事実や意見の関係を押さえて読み、筆者の主張の根拠となる事柄を要約する力が不十分である。（５・６年）

【小学校国語科の授業改善について】

【課題を踏まえた改善のポイント】

今回の調査の課題を踏まえ、特に次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　物語文の「読むこと」の指導では、言葉を根拠にして、登場人物の心情や行動の意味などを正確に読ませましょう。（知識や技能の習得）

2　「聞くこと」の指導では、メモの大切さや適切なメモの取り方を理解させ、日々の授業の中で実際にメモを取る活動を仕組みましょう。（知識や技能の習得）

3　文章や図表、グラフなどから必要な事柄を読み取り、自分の言葉で話したり、書いたりする活動を設定しましょう。（活用する力の育成）

4　自分の考え方や思いを伝えるために、新聞やポスターなど多様な表現様式にふさわしい書き方を身に付けさせましょう。（活用する力の育成）

5　１時間の目標を踏まえ、「言葉の意味や用法」「正確な読み取り方」「効果的な書き方」などが「わかった」という達成感を持たせましょう。（学ぶ意欲の向上）

【日々の授業の改善のポイント】

今回の調査で測定されたものは、国語科の学力の一部です。毎日の授業の積み重ねによって着実に学力を伸ばすため、次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　音読指導、漢字指導については、学校・学年で工夫し、子どもに具体的な目標や評価の観点をもたせ、家庭と連携して取り組みましょう。

2　１時間のめあて（ねらい）をはっきりと示し、子どもが自分の力で読んだり、書いたりする活動を設定しましょう。

3　「読むこと」の指導では、学習指導要領から絞り込んだ指導事項をしっかりと身に付けさせましょう。

4　目的や必要に応じて「書くこと」「話すこと」の活動を多く設定し、自分の考えや思いを表現することに慣れさせましょう。

5　国語科だけでなく、教育活動全体で国語力の向上に取り組みましょう。

小学校　国語科　知識や技能の習得

【改善のポイント】

叙述内容を分析して、内容を把握する

叙述内容を分析して人物像を読み取ることの指導では、次に示すように、文の中での主語と述語の関係や語句の係り方、照応の仕方などを丁寧に指導することが必要である。

〈例〉【人物像を正確に把握する】

（１）右の文章では、「ごん」についてわかることが三つあることを押さえる。

・「ごん」について、いくつのことが書いてあるか、などと発問する。

（２）人物像を読み取るためのポイントを示す。

・「ごんは」という主語を押さえ、「何だ」「どうした」という述部を丁寧に読ませる。

・叙述を構造的に板書し、文や文章の構成を理解させる。

（３）人物像としてとらえた三つの事柄をまとめさせる。

・「ひとりぼっちの小ぎつね」のような登場人物にかかわる叙述を落とさない。

・展開に応じて「いたずらばかり」する理由などを考えさせる。

ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。

（平成十九年度　全国学力・学習状況調査問題より）

〈指導にあたって〉　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　登場人物についての叙述を読み落とすことがないよう発問や指示を工夫するなどして、正確に読み取ろうとする意識を高める。

○　他の物語文の読みにも生かしていけるように、「主語を考え、補って読むこと」、「文の構成を考えて読むこと」など、人物像の読み取り方が身に付くよう指導する。

◇　登場人物の心情や人物像の把握では、「なぜか」「どうしてか」という発問が多用されるが、読みの根拠となる場面や叙述を正確に押さえることが大切である。

【改善のポイント】

話の要点を聞き取り、効率よくメモをとる

〈例〉【メモの内容や取り方を相互に評価し合う】

［インタビューによる二つのメモから考えさせる］

［メモ１］
○小学校の教師になろうとしたきっかけ

・子どもが好きだから

・勉強を教えるのが好きだから

・理想とする先生がいたから

［メモ２］
いろいろありますが、子どもが好きだったということです。友人に勉強を教えるのも好きでした。
小学生の時にあこがれた先生のようになりたいと思ったのもきっかけになりました。

（１）効率的なメモの取り方について話し合い、次のようなことに気づかせる。
・見出しをつけると何についてのメモかわかりやすい。
・箇条書きにすると内容がすぐわかる。
・「何が、どうだ」といった主語・述語でまとめるのもわかりやすい。

（２）話の要点をとらえながら聞くことについて指導する。

・繰り返し出てくる言葉、接続語、話し手の声の調子などに注意し、(1)での話し合いで気づいたことを生かしてメモを取っていくように指導する。

・メモの取り方、話の聞き取り方を理解させた上で、実際にメモを取る活動を設定する。

（３）互いのメモを交換し、評価し合う学習活動を設定する。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　適切な教材を提示するなどして、効率的なメモの取り方を自分で発見できるような指導を行う。

○　効率的なメモの取り方に必要な知識を理解し、聞き取る力が身に付いているか、聞き取りメモを交換して評価し合う場を設定する。

◇　板書事項をノートに書き写すだけでなく、教師の説明や友達の発言をメモする活動を仕組むなど、他教科を含めた日々の授業の中で、繰り返しメモを取る様々な方法を指導する。

小学校　国語科 活用する力の育成

【改善のポイント】

複数の資料から筆者の主張の根拠を読み取る

〈例〉【文章とグラフにまとめられた事実を関係付けて読む】

【資料１】

１　家庭や地域などから毎日のようにさまざまなごみが出されます。ごみの量をこれ以上増やさないようにするために、わたしたちに何ができるでしょうか。また、資源（げん）として大切に使うために、どのようなことができるでしょうか。身近な紙の問題を例にして考えてみましょう。

２　紙は、わたしたちのくらしの中でなくてはならないものであると同時に、産業や文化を支える大事な働きをしています。トイレットペーパーやティッシュペーパーなどは、生活用品として、また、新聞や雑誌（し）、本などは、情報と知識を伝えるものとして、はば広く使われています。

３　一般に紙は、「紙」と「板紙（厚手の紙のこと）」に区分されます。新聞、雑誌、印刷用紙、コピー用紙、ノート、ティッシュペーパーなどは、「紙」に区分されます。段ボールや紙箱用のボール紙などは、「板紙」に区分されます。

４　日本の紙と板紙の生産量は、二〇〇二年（平成十四年）には、世界第三位となっています。そのほとんどは国内で消費しています。

５　社会や経済の発展にともない、紙はより多くの分野で使われるようになり、新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきました。そこで、一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきました。紙の原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があります。

６　古紙には、新聞紙、雑誌、段ボール、紙パックなど、いくつかの種類があります。中でも、新聞紙、雑誌、段ボールの三種類が、古紙の大部分をしめています。

７　古紙の再生の方法としては、同じ種類の紙に生まれ変わることが多くなっています。段ボールの古紙は段ボールに、新聞紙の古紙は新聞紙になります。そのため、同じ種類の古紙はひもでくくり、まとめて回収に出すことが大事です。また、水にぬれていると再生しにくくなったり、金属が付いていると手間がかかってしまったりします。回収に出すときに少し気をつけることで、古紙の再生に役立つことになるのです。

８　このように、わたしたちの身近なところから古紙の再生利用を進めていくことは重要です。古紙を使って紙を生産し、古紙からできた紙をさらに再生利用することで紙のごみを減らし、資源を有効に活用することができます。わたしたちの身近なところからごみを減らすことを考えて、取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。

（平成十九年度 全国学力・学習状況調査問題より）

（１）【資料１】で筆者が伝えたい事実を読み取らせる。

①事実と感想の述べ方の違いに気づかせるため、事実を表す文に線を引かせる。

②取り上げた事実を形式段落ごとに整理し、小見出しを付けさせる。

・紙の必要性、紙の区分、日本の紙の生産量と消費、紙の再生利用、古紙の種類、古紙の再生方法など、筆者が取り上げている事実を読み取らせる。

（２）【資料２】で表現された事実を読み取らせる。

・「何について表したものか」
「８か国を多い順に並べてみよう」
など

・【資料１】ではわからないが、
【資料２】でわかることはどのようなことか、など

（３）【資料１】と【資料２】を関係付けながら、取り上げた事実を正確に読ませる。

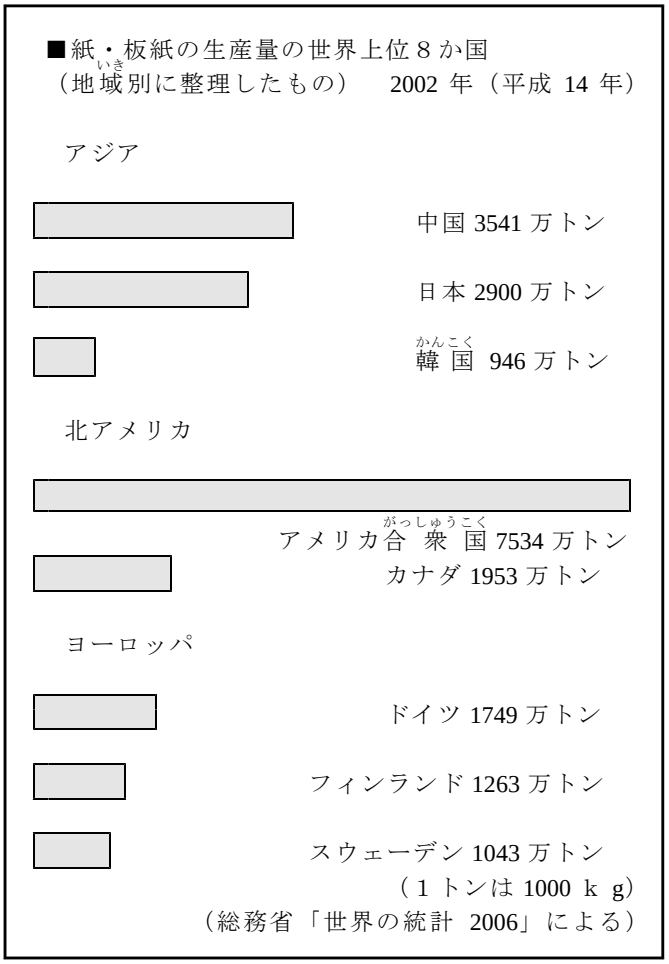
・【資料２】のデータは、【資料１】で取り上げた、どの事実とつながっているかを読み取らせる。

（４）筆者の主張やその根拠を読み取らせ、要約させる。

・「ごみ」をこれ以上増やさない。
・「資源」を大切に使う。
そのために、
・古紙の再生利用に取り組む。
だから
・同じ種類の紙ごとに分けてごみを出すなど身近なところから始めよう。

といった筆者の主張やその根拠を要約させる。

【資料２】「平成１９年度 全国学力・学習状況調査問題より」



（５）筆者の主張に対する自分の考えを持たせ、まとめさせる。

・文字数等の一定の条件を与えてまとめさせる。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　文章における事実と意見の述べ方の違いやグラフ・図表に示された事実を正確に読み取る力を付ける。

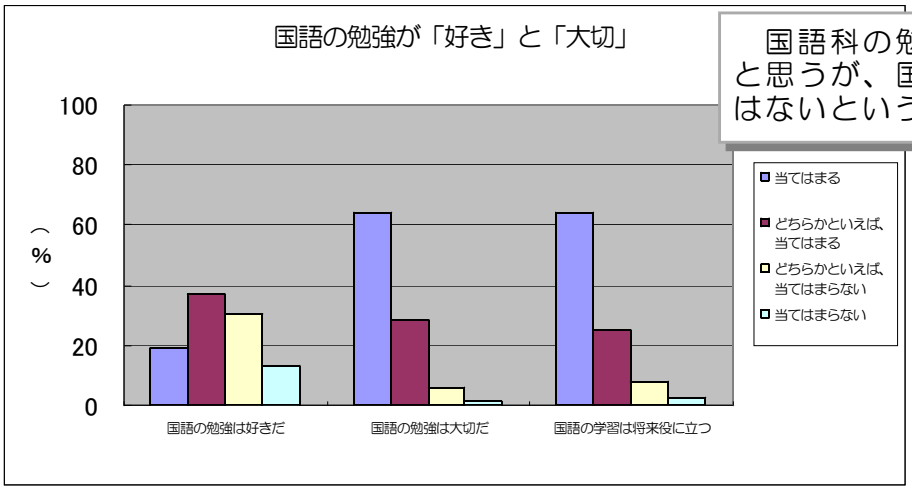
○　グラフのデータは、文章で取り上げたどの事実にかかわるものかを関係付け、筆者の主張やその根拠となる事実を読み取り、まとめる学習活動を設定する。

◇　主張や意見を述べるための事実の取り上げ方に対して、「事実の取り上げ方は適切か」「示された事実によって主張することができるか」など、文章を評価して読むような学習活動を設定する。

小学校　国語科 学ぶ意欲の向上

【改善のポイント】

目標を絞り、達成への意欲を高める



国語科の勉強は大切、日常生活で役立つと思うが、国語科の授業は、あまり好きではないという子どもたちに向けて・・・・

目標を示し
「この力がついた！」
という成就感へつなげる

国語科の授業で学んだことが「～で役に立った」と実感させる

（平成１９年度全国学力・学習状況調査児童質問紙調査－本県児童の結果から）

「単元（教材）で身に付けさせる力は指導者自身が決める！」
例えば、３・４年生で説明的文章を取り扱う場合

指導領域決定

① 教材の価値を分析し、「読むこと」などの指導する領域を絞る。
・どの領域の指導で価値のある教材か。
・一教材で指導する領域を一つに絞り込む。

目標とする指導事項決定

② 目標とする学習指導要領の指導事項を絞る。
・例えば、中心文がとらえやすく、構成を考えることに適した教材であるから、ここでは「読むことーイ」に絞った指導をするというように。

指導計画決定 指導の工夫検討

③ 身に付けさせる力の定着のために指導を工夫する。
・段落の要点を抜き出したり、意味のまとまりごとに小見出しをつけさせたりして、段落の内容や構成を整理させる。
・意味内容だけを追うだけでなく、接続語、文末表現、繰り返し語句などの叙述も押さえさせる。
・文章全体における段落の役割を理解させるため、段落分けをさせ、段落構成図をつくらせる。
など、指導事項定着のための「読むこと」の指導に絞る。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○◇　指導事項を絞り込み、子どもに対しても、この授業は国語科のどのような力を身に付けていくための学習なのかを明確に示して、主体的な学習を促す。

○◇　物語への感動、たくさん話せたことへの満足にとどまらず、次の単元でも生かしていけるような読み取り方、話し方が身に付いたことが実感できるように単元全体の展開を工夫する。

【改善のポイント】

「国語科で身に付けたことは様々な場面で生きる」
このことが実感できるよう指導する

全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査を見ても、９割の子どもが「国語科で学んだことは、日常生活で生かされる」と感じている。「今日の学習が、～に生かされる」「日ごろの～が、この国語の学習に生かされる」という意識を持たせ、実感させるところまで高めることが必要である。そのためには、学校全体での取組、家庭との連携が重要である。

全体計画作成

○子どもたちの実態や現在の課題から育成すべき力を明確にする。
- 課題から重点指導項目を定め、国語科年間指導計画を学年ごとのチームで作成する。
- 「長崎県国語力向上プラン」を参考にして、国語科で育てること、他の教育活動で育てることを縦横の関連から整理する。

実　　践

○国語科で学んだことは他教科等の学習につながることや、日常生活で意識して取り組むことが国語科の学習にもつながることが実感できるような学習を仕組む。

○すべての教科で、「話す力・聞く力」「書く力」「読む力」を付けることを意識的に行う。

○特に音読や漢字学習、読書活動等において家庭との連携を大切にする。

評　　価

○学年ごとの評価規準に照らし評価する。
- 国語科で行う評価とともに、学校の教育活動全体で培う国語力について、学年ごとの規準を定め、定期的に評価し改善へとつなげる取組を行う。
- 「長崎県国語力向上プラン」の各学年の指導事項を評価規準として生かし、身に付くまで粘り強く支援する。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○◇　国語科の「今日の学び」について、「他教科の学習」や「言語生活」への生かし方をしっかり指導する。

○◇　国語科での「効率よくメモを取り、話の要点を聞き取る学習」の後、総合的な学習の時間で「職場訪問インタビュー」を実施するなど、「学んだことを生かす機会」を意図的に仕組む。

○◇　漢字の使用、メモの取り方、適切な話し方など、子どもたちが「国語科で身に付けた力をどう活用したか」を定期的に自己評価する学習活動を仕組む。

【中学校国語科の課題】

主として「知識」に関する問題

全国学力・学習状況調査結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・手紙をはじめとする、様々な形態に必要な知識を理解し、効果的に書くことができる。	第２・３学年　B書くこと　ウ
・文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすることができる。	第２学年　言語事項（２）ア・イ
・語句の文脈上の意味を読み取ることができる。	第１学年　C読むこと　ア

主として「活用」に関する問題

全国学力・学習状況調査結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・様々な資料の表現の特徴を読み取ることができる。	第２・３学年　C読むこと　ウ
・様々な資料の文章から必要な情報を読み取ることができる。	第１学年　C読むこと　カ
・資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くことができる。	第１学年　B書くこと　イ C読むこと　オ

※主として「活用」に関する問題は、概ね良好であるが、複数の資料から得た情報から自分の考えを明確にし表現するような問題に課題がある。

県の基礎学力調査結果の課題との共通事項

・日ごろあまり使用されない漢字や、他と混同しやすい漢字は定着が不十分である。（１・２年）
・与えられた条件で文章を要約する力が不十分である。（１・２年）

【中学校国語科の授業改善について】

【課題を踏まえた改善のポイント】

今回の調査の課題を踏まえ、特に次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　手紙をはじめ、説明や記録、感想、報告等の様々な表現様式の特徴について理解させ、それらに即して「書くこと」の活動を設定しましょう。特に、社会科や理科、総合的な学習の時間等との関連を図り、国語科で学んだ書き方を活用させましょう。（知識や技能の習得）

2　文章だけでなく、図表やグラフ等の多様な資料を教材化し、必要な情報を正確に読み、根拠を明確にして自分の考えを表現したり、資料に表れたものの見方や考え方、表現の仕方などを評価したりする活動を設定しましょう。（活用する力の育成）

3　生徒自身が「国語科の力の伸び」を実感できるよう、１時間の目標や指導事項を明確にし、生徒が意欲を持って取り組めるような課題（めあて）を提示しましょう。（学ぶ意欲の向上）

【日々の授業の改善のポイント】

今回の調査で測定されたものは、国語科の学力の一部です。毎日の授業の積み重ねによって着実に学力を伸ばすため、次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　新出漢字をはじめ、漢字に関する学習の「具体的な学び方」を教えるようにしましょう。

2　生徒が主体的に自分の考えを持ち、表現することができる授業を構想しましょう。

3　目標を明確にした授業、終末のまとめや振り返りがある授業を行うことで、生徒が「国語科の授業で身に付けた力」を実感できるようにしましょう。

4　生徒の読書の幅を広げるため、国語科を中心としてあらゆる教科等で学校図書館を活用したり、様々な場面で本の紹介をしたりしましょう。

中学校　国語科　知識や技能の習得

【改善のポイント】

手紙をはじめとする、様々な形態に必要な知識を理解し、効果的に書く

「手紙を書くための知識」については、教えるだけでは定着しない。「相手意識」「目的意識」を明確にして実際に手紙を書かせ、「頭語・結語・後付け」の意味を体験的に理解させて、知識の「定着」を図ることが大切である。

また、手紙だけでなく、説明や記録、感想や意見を「書くこと」の指導においても、単に書かせるのではなく、それぞれの形態に即して適切な構成、表現方法等を踏まえた指導を行うことが大切である。

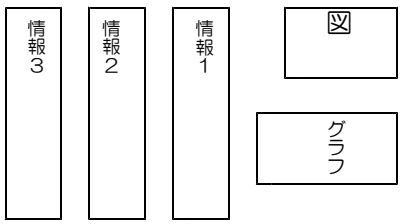
〈例〉【説明文を書く】

１カ月後に「説明文」を書くことを告げる

(1)　学校生活、教科の授業、ニュースなどから「説明文」のテーマをさがし、正確に伝えるための材料を集めておくように指示。前年度の生徒の作品等を示し、身近なところからテーマを見つけることや、材料として図表等も活用することなどを伝える。（例：理科の実験、技術・家庭科作品の作り方、総合的な学習の時間に疑問に感じたこと等）

説明文を書く

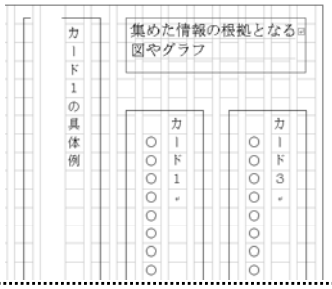
(2)　テーマ決定　　(3)　情報収集
(4)　集めた情報（カード）の整理



・だれに対して、何のために書くかという、相手と目的を明確にし、どのように構成すればより正確に説明できるか考えさせる。

(7)　作品として残す…次年度のモデルとなる

(5)　下書き



※　「意見文」であれば、「自分の考えや主張をはっきりさせる」ことが求められる。また、説得力を持たせるため、「確かな根拠となる適切な材料」が必要となる。

(6)　清書

＜指導にあたって＞

「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　「説明」「意見」「記録」「感想」「報告」「通信」等、それぞれの形態に合わせた「書く」指導を行う。

○　「書く内容」を充実させるため、事前に計画を伝え情報を収集させるなど、生徒が見通しを持つことができる学習活動を仕組む。

○　最終的な作品の批評だけではなく、「書いている途中」の指導を大切にする。

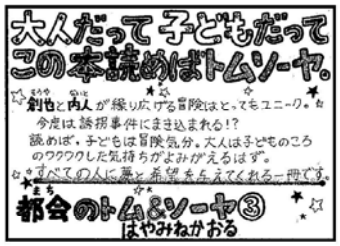
◇　国語科の学習が他教科等の書くことの学習に役立つことを実感させ、国語科で学んだことを生かすよう指導する。

中学校　国語科 活用する力の育成

【改善のポイント】

様々な資料の文章から必要な情報を読み取り、伝えたい事柄や根拠を明確にして書く

右のカードは〔国語Ｂ〕 の問題の一部である。「様々な資料の文章から必要な情報を読む」という授業を構想するとき、「様々な資料の文章」を文学的文章や説明的文章に限定しがちであるが、「活用する力」の育成のためには、このような「広告カード」や図表等も「資料」とする必要がある。この点から授業を構想すると、次のような展開が考えられる。



〈例〉【広告カードを作成する】

問題文の広告カードを資料として提示

(1)　効果的な「広告カード」の条件を資料から読み取る。（どのような表現がわかりやすいのか）

教科書教材を活用して

【読むこと】

(2)　教科書教材（文学的文章でも説明的文章でも可）の読みのめあてとして、その教材の「広告カードを書く」ことを設定。カードに記入する材料を教材から読み取る。
※目的を持って様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。
（第２・３学年読むこと　オ）

【書くこと】

(3)　見た人がその教材を読んでみたくなる「広告カード」を、(2)の読み取った内容を材料として作成する。その際(1)の「どのような表現がわかりやすいのか」ということを考慮して記述する。

(4)　それぞれの「広告カード」を読み比べ、「見た人が読みたくなるカード」という視点で「材料の活用の仕方」について評価し合う。

(5)　自分の作品とは違う視点で記述している生徒の作品を選び、自分の作品との違いを説明する文章を書く。
※自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。
（第２・３学年　書くこと　エ）

授業を構成する上では、指導事項を絞り込み、目標を明確にすることが必要である。目標が明確な「読むこと」の授業と「書くこと」の授業を関連させて構成することで、「必要な情報を得るために資料を読み、収集した情報を整理し、目的に応じて活用する」という一連の活動が可能となる。目標が明確で、培った力を活用し達成感が得られる授業は、生徒の学習意欲を高め、「活用する力」を育成することが可能となる。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

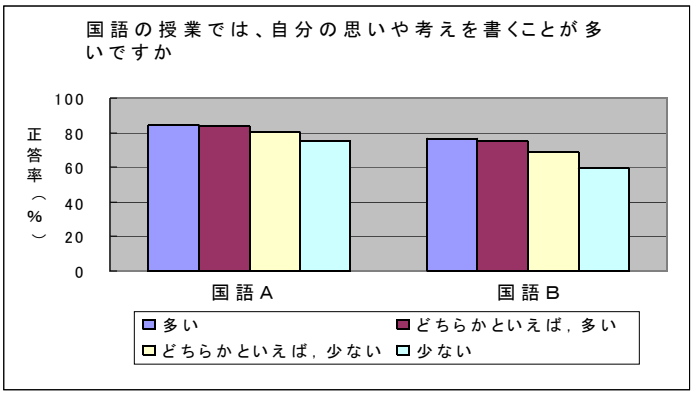
○　教科書教材だけでなく多様な資料を教材として、国語科としての指導事項を明確にし、「資料の読み方」「情報の整理の仕方」「書き方」等を確実に指導する。

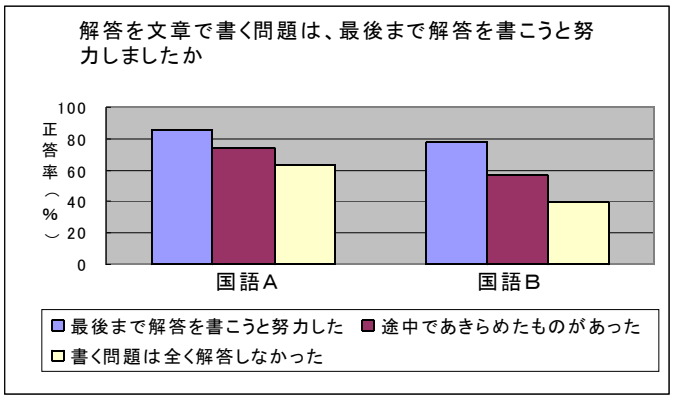
◇　国語科の領域相互を関連付けて授業を構成することはもちろん、他教科等の学習活動と関連付けて授業を構成することで、「活用する力」の育成を図る。

中学校　国語科　学ぶ意欲の向上

【改善のポイント】

「書くこと」を通して表現の喜びを実感できる授業をつくる





※グラフは本県の状況

今回の調査結果で、「国語科の授業で自分の思いや考えを書くことが多い」と答えた生徒の正答率は高い傾向にある。

また、「解答を文章で書く問題」に最後まで取り組むかどうかでは、取り組む態度によって正答率にかなりの開きが見られた。（特に「国語B」において顕著であった。）

これらを踏まえ、日々の授業で、「考えを持たせること」や「書くこと」をどう指導しているかを振り返り、次のような点に留意して授業を構想する。

○　課題や発問を明確に示し、個人や集団で「思いや考えを深める」場面を十分に確保する。
○　自分の考えを書いたり、書いたことをもとに話し合ったりするなど、「表現する」場面を十分に確保する。
○　課題に対して、あきらめることなく粘り強く取り組むよう支援する。

考え、表現することを日常化することで、「書くこと」への抵抗感を少なくするとともに、表現することの楽しさを味わうことができる授業とする。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○◇　自分で考え、書いたり話し合ったりする場を設け、「読みを深める喜び」「表現する喜び」を感じることができる授業を構想する。

○◇　「できた」「やり遂げた」という達成感を味わうことができる授業を仕組み、最後まであきらめずに取り組む態度を育成する。

【小 学 校 算 数 科 の 課 題】

主として「知識」に関する問題

全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・分数と整数、小数の関係を理解し、異分母の分数を同じ数直線上に表すことができる。	第４学年　Ａ 数と計算（５）ア、イ 第５学年　Ａ 数と計算（４）ア、イ
・乗法、除法の意味を確実に理解し、小数の乗法、除法の判断ができる。	第５学年　Ａ 数と計算（３）イ
・円の面積を求めることができる。	第５学年　Ｂ 量と測定（１）イ

主として「活用」に関する問題

全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・百分率を用いて、それぞれの代金を求め、比較することができる。	第５学年　Ｄ 数量関係（２）
・与えられた条件を基に地図を観察して図形を見出し、面積を比較して説明することができる。	第４学年　Ｂ 量と測定（１）ウ 第５学年　Ｂ 量と測定（１）ア
・式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる。	第４学年　Ｄ 数量関係（２）ア、イ 第５学年　Ｄ 数量関係（４）

※ 課題となる顕著な項目を示したが、主として「活用」に関する問題は、１４問中１２問が国の平均を下回っている。特に<u>複数の情報から必要な情報を選択して処理すること</u>や、<u>思考の過程を説明すること</u>に課題がある。

県の基礎学力調査の課題との共通事項

・基本的な図形の求積については、図形の配置や向きにかかわりなく図形の構成要素に着目して、それらを活用する学習経験が不十分である。（４・５年）
・数量関係の学習は、表に表すことの有用性や数量間の規則性を見出し、その規則性を活用して課題を解決する学習経験が不十分である。（４年）

【小学校算数科の授業改善について】

【課題を踏まえた改善のポイント】

今回の調査の課題を踏まえ、特に次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　知識や技能の習得にあたっては、「なるほど」、「そうか」等の実感をもたせながら繰り返し、定着を図りましょう。（知識や技能の習得）

2　解決に必要な情報のみを示した基本的な問題で知識や技能等を獲得させるだけでなく、複数の情報が入った問題等を使って、必要な情報を適切に取り出し、解決していく学習を仕組みましょう。（活用する力の育成）

3　答えの正誤だけでなく、思考の過程を説明できるようにするために、まず、教師自身が模範となる説明をしてみせ、指導していきましょう。（活用する力の育成）

4　導入は意欲満々だが、授業が進むにつれ理解できなくなり意欲が低下するといった終末ではなく、ねらいが達成できたかなどの振り返りをさせ、子どもに「わかった」、「できた」などの成就感を持たせる終末にしましょう。（学ぶ意欲の向上）

【日々の授業の改善のポイント】

今回の調査で測定されたものは、算数科の学力の一部です。毎日の授業の積み重ねによって着実に学力を伸ばすため、次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　今日の授業は、「知識・理解の授業」なのか、「表現処理の授業」なのか、「数学的な考え方の授業」なのかが明確にわかるようにねらいを絞り込みましょう。

2　１時間の評価の観点は絞り込み、単元全体でバランスよく各評価観点を設定しましょう。

3　多様な考え方を引き出す工夫だけでなく、ねらいの達成に向けて、教師は積極的に教えたり、考えを提示したりして、子どもの数学的な考え方を育てましょう。

4　内容消化だけの授業にならないように、毎時間の子どもの学びをしっかりと把握し、必要に応じて補充学習等の学習支援を行い、「わからない」ことの積み重ねにならないようにしましょう。

小学校　算数科　知識や技能の習得

【改善のポイント】

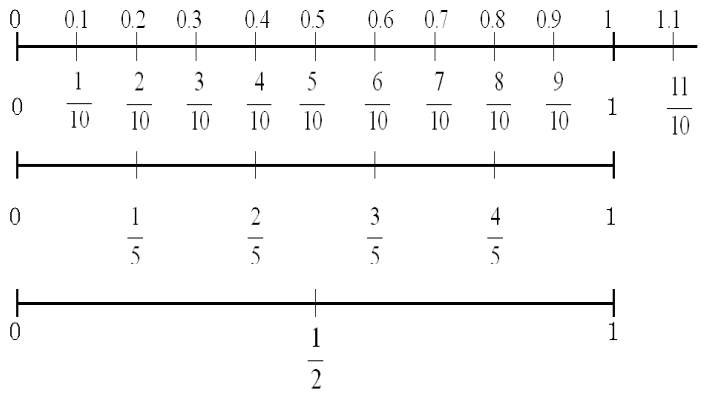
ー整数、小数、分数の意味を実感して理解できるー

＜例＞　ー整数・小数・分数の関係ー

小数や分数の単元では、当該学年の指導内容に応じて、右のような数直線を作成したり、よみとったりする活動を設定する。その中で数の意味や大きさの理解を確実にするとともに、異分母の分数を数直線に表す活動を設定し、分数の大きさについての感覚を豊かにし、分数についての理解を深められるようにする。

また、下記のような誤答を教師が提示し、間違いに気づかせ、知識を確実なものにすることが大切である。

【分数や整数、小数を同じ数直線上に表す活動を！】



こんな誤答があります。
必ず確認を！！

＜誤答例より＞

（例１）分数の意味の再確認が必要な例

$\frac{7}{10}$ と $\frac{4}{5}$ の大きさを判断する問題では、１７．２％の子どもが $\frac{7}{10}$ が大きいと答えている。分子の７と４の数だけに着眼して大きいと判断したことなどが考えられる。

【誤答への対応例】

○例えば、同じ長さのテープを $\frac{7}{10}$ と $\frac{4}{5}$ に切る活動を仕組み、それぞれの分数の意味を確認しながら、その大小についても実際のテープの長さで捉えさせるなど、具体物を通して視覚的に実感させることが大切である。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　整数、小数、分数の指導においては、具体物を用いた算数的活動を通して、その関係性を実感できるようにする。

○　誤答を分析し、間違った数概念をもっている子どもを把握し、学び直しの指導を行う。

◇　具体物等を用いた算数的活動を通して新たな知識を実感した後、繰り返し学習により、確実に習得できるようにする。

小学校　算数科 活用する力の育成

【改善のポイント】

－複数の情報から必要な情報を選択して問題を解決できる－

＜例＞　－三角形の面積を求める－

基本の問題

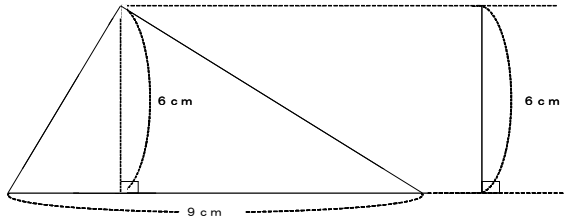
↓

複数の情報から必要な情報を適切に取り出す問題

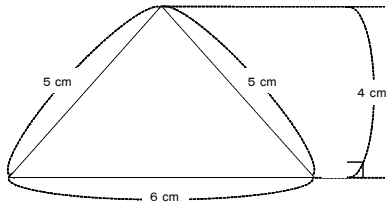
↓

複数の情報から必要な情報を適切に取り出し、図形の面積を工夫して求める問題

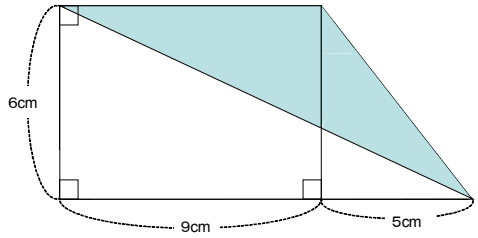
次の三角形の面積を求めましょう。



次の三角形の面積を求めましょう。



次の水色の三角形の面積を求めましょう。



＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　求積に必要な要素と公式を繰り返し対応させ、図と底辺・高さなどの用語やその位置が確かに結びつくようにする。

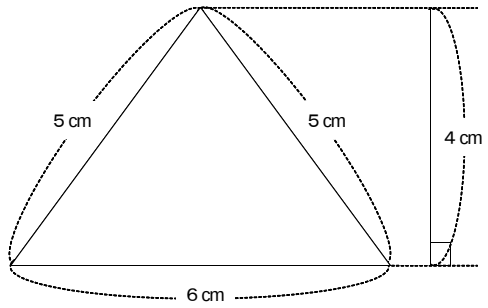
◇　基本の問題だけでなく、複数の情報から必要な情報を取り出し工夫して求める問題を提示し、公式等の知識や技能を活用できるようにする。

【改善のポイント】

ー思考の過程を筋道を立てて説明できるー

＜例＞　ー三角形の面積を求めるー

次の三角形の面積を求めましょう。



＜説明例＞

①三角形の面積は底辺×高さ÷２ですね。

②だから底辺と高さの長さがわかれば求められます。

（情報を取り出す視点）

③図を見て６㎝の辺を底辺と考えます。

④底辺から頂点までの高さは、図の右にかかれてある垂直な線で４㎝とわかります。　（情報を取り出した根拠）

⑤底辺を６㎝の辺にしたので、５㎝の辺はどちらも、底辺ではありませんね。

⑥また、底辺から頂点までの垂直な辺でもないので、高さでもありませんね。

⑦底辺でも高さでもないので、三角形の面積を求める時は使いません。　（不必要な情報である根拠）

⑧底辺が６㎝、高さが４㎝とわかったので、

６×４÷２＝１２　答え　１２㎠　です。

数学的な考え方を深めたり、広げたりするために、算数科の授業では、自力解決の後に練り合いを行うが、これらの活動を有効に働かせるためには、

○　自分の考えを筋道を立てて、わかりやすく説明する力

○　式や図等で表す力や式や図等をよみとる力

を子どもに付ける必要がある。

これらの力を育成するために、授業においては、「なぜ足したのか」「なぜかけたのか」など、「なぜ」という発問を教師は常に意識し、子どもたちにも「なぜ」という考え方を意識させ、発達段階に応じて論理的な説明をする力を適切に指導することが大切である。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　説明の仕方をきちんと教える。教師は、実際に説明してみせながら、説明方法を簡潔に示し、子どもに指導する。

○　口頭だけの説明ではなく、自分の考えをノートに書いて、言葉や図を用いて説明する場を設定する。

◇　友達や教師が提示した式や図を見て、それぞれの考え方を推察し、自分の言葉で説明する場を設定する。

小学校　算数科 学ぶ意欲の向上

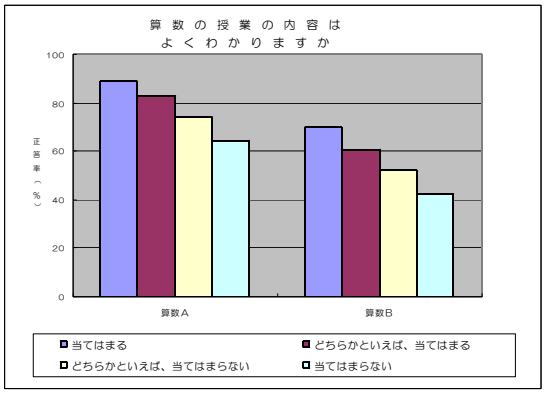
【改善のポイント】

－「わかった」「できた」「算数が好き」と実感できる－

今回の調査結果で、「算数の授業がわかる」「算数が好きだ」と答えた子どもの正答率は高い傾向にあることがわかった。日々の授業において次のような振り返りが必要である。

○導入時の興味・関心を高めることはできているが、ねらいを達成させる終末の段階では理解が不十分になり、意欲を低下させていないか。

○算数科の本質的な価値にせまる考え方をした子どもがいても具体的に取り上げることなく、「がんばったね」といった励ましだけで算数のおもしろさを味わわせていないのではないか。



※グラフは本県の状況

【改善に向けての取組例】

○終末で「考えてみたらおもしろかった」とか「わからないと思っていたけどできた」という成就感が得られる教材か、またそのような算数的活動になっているかを吟味し、教材を精選しシンプルな展開を仕組む。

○例えば、類推的に「さっき、こうなったから、これも同じようになるのではないか」「やっぱりなった」「じゃあ、次も・・・になるのでは・・」など、数学的な考え方ができたことを具体的に賞賛し、指導していく。

○漫然とドリルをさせるのではなく、子どもの意欲の状態を見ながら、例えばドリルの量や制限時間などを工夫し、刺激を与える。

わかった！　できた！
という実感をもたせる
授業づくりを！！

算数を好きにさせる教師の
賞賛を！！
言葉で、赤ペンで！
具体的に！

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○◇　授業の終末では、学んだ算数科の本質的な意味や価値に触れて、算数のおもしろさを味わうことができたことを賞賛する。

○◇　本時のねらいがどの程度習得できたかを把握するため、ねらいに即した類似問題やノート等の記述内容など、適切な方法で評価の手だてを講じ、次の指導に生かす。

○◇　数学的な考え方の育成をねらいとした授業では、多様な考えを引き出すことばかりに意識が向き、まとまりのない終末にならないように、「教えること」、「考えさせること」を絞り込み、子どもが「こういう考え方をすることがわかった」と実感できるような終末にする。

【中学校　数学科の課題】

主として「知識」に関する問題

全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・方程式を解くにあたって、移項と等式の性質の関係を理解している。 ・関係を表す文字式を、等式の性質を用いて目的に合うように変形することができる。	第１学年　Ａ 数と式（３）イ 第２学年　Ａ 数と式（１）ウ
・円錐の体積と、底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係を理解している。	第１学年　Ｂ 図　　形（２）ウ
・反比例を表す表の特徴から、ｘの値に対応するｙの値を求めることができる。 ・１の目が出る確率が１／６であることの意味について理解している。	第１学年　Ｃ 数量関係（１）ウ 第２学年　Ｃ 数量関係（２）イ

主として「活用」に関する問題

全国学力・学習状況調査の結果から見られた課題	学習指導要領の内容・領域
・与えられた情報を分類整理して、起こり得る場合の総数を求めることができる。	第２学年　Ｃ 数量関係（２）ア
・連続する３つの自然数の和が３の倍数になる説明をもとに、連続する５つの自然数の和が５の倍数になることを説明することができる。	第２学年　Ａ 数と式（１）イ
・ｘとｙの関係を表すグラフの点の並び方から一次関数である理由を説明することができる。	第２学年　Ｃ 数量関係（１）ア イ

※主として「活用」に関する問題では、１７問中１６問で国の平均を上回っているが、根拠を示しながら結論を説明する問題では、ほとんどが正答率５０％を下回っている。

県の基礎学力調査の課題との共通事項

・空間図形の念頭操作を苦手としており、展開図や見取図を作図したり、立体模型を観察・操作したりする数学的活動が不十分である。（１・３年）
・図形領域や数量関係領域等における概念や用語について正しく理解されていない事項があり、関連する単元で復習を兼ねての螺旋的・反復的な指導が不十分である。（１～３年）

【中学校数学科の授業改善について】

【課題を踏まえた改善のポイント】

今回の調査の課題を踏まえ、特に次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　文字式の計算や方程式を解くための技能について、繰り返し練習し習熟を図るとともに、誤った解き方を例示するなど、解法の意味や根拠を明確にして理解を深める活動を設定しましょう。（知識や技能の習得）

2　「ｙについて解く」などの数学特有の表現や用語・記号の意味について、式をよむ活動や具体物を操作したり、作図したりする活動を通して実感できるようにしましょう。（知識や技能の習得）

3　与えられた条件の中から必要な情報を整理することについて、樹形図や表、グラフなどを利用する場面を設定しましょう。（活用する力の育成）

4　学んだことをもとに、説明の根拠としたり、発展的に考えたりできるように、条件を変えたり、考察する範囲を広げたりする学習活動を設定しましょう。（活用する力の育成）

5　実験や実測を通して、確率の意味や体積の量感などを実感できる活動を設定しましょう。（学ぶ意欲の向上、知識や技能の習得）

【日々の授業の改善のポイント】

今回の調査で測定されたものは、数学科の学力の一部です。毎日の授業の積み重ねによって着実に学力を伸ばすため、次の視点をもって授業改善に取り組んでください。

1　数や文字式の計算など、基礎的・基本的な知識・技能については、生徒に具体的な到達目標をもたせ、必要に応じて授業以外の学習支援を行ったり、家庭とも連携したりしながら確実な定着を図りましょう。

2　１時間のめあて（ねらい）をはっきりと示し、「わかった」「できた」という成就感を味わわせたり、「わからなかったこと」「できなかったこと」を自覚させたりするように、振り返りの場面や方法を工夫しましょう。

3　与えられた問題の解答だけでなく、その根拠や説明を記述するようなノート指導に努めましょう。

4　生徒の授業中のつまずきや単元テスト等での誤答を記録し、その分析をもとに、きめ細かな指導に取り組みましょう。

中学校　数学科　知識や技能の習得

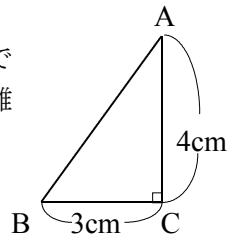
【改善のポイント】

ー数量や図形の意味を実感的に理解できるー

２つ以上の文字を含む等式の変形では、式変形の目的を明確にし、分配法則や等式の性質などの根拠を意識して変形できるようにすることが大切である。

例えば、三角形の面積を求める公式 $S=\frac{1}{2}ah$（aを底辺、hを高さとする。）を、高さhについて解いた式に変形する目的を、次のような具体的な場面で感得できるようにすることが大切である。

【例題１】
右の直角三角形で点Ｃと辺ＡＢの距離を求めよう。

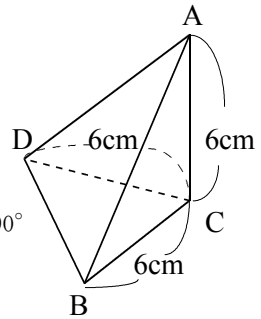


小学校５年生で、三角形の面積の公式を学習するが、
（面積）＝（底辺）×（高さ）÷２
という公式のうち、右辺の計算式だけを公式として捉えていると【例題１】を解決するための考えが浮かびにくい。

このとき、面積を求める公式を等式として捉え、高さhについて解くという意味が解決のための考え方につながることに気づくことで必要性を感得できる。

※ 同じ考え方が空間図形でも利用できることを繰り返し指導する。

【例題２】
右の三角すいで点Ｃと面ＡＢＤの距離を求めよう。
ただし、
∠ACB=∠ACD=∠BCD=90°
とする。



さらに、【例題２】のように、既習内容によって、面ＡＢＤの面積を求めることができる条件を与えなければならないが、生徒は、同じ考え方を繰り返し体験することで、その考え方のよさや有効性を感得し、実感的に理解できるものと考える。

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　等式の変形を形式的に行うだけでなく、具体的な場面で式を変形するよさを感得できるようにする。

○　単なる繰り返しの練習だけでなく、数学的活動を充実し、知識・技能を確実に身に付けるようにする。

◇　数量や図形に関する用語や数学特有の表現について、実際に作図したり、具体物を操作したりして、実感的に理解できるようにする。

中学校　数学科 活用する力の育成

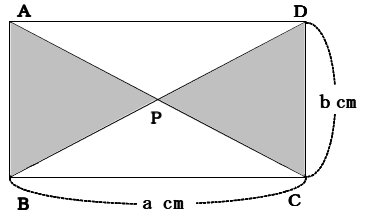
【改善のポイント】

ー 問題の条件を変えるなどして、発展的に考えることができる ー

数や図形についての性質を見つける際には、具体的なものから帰納的に考える場合や、ある性質をもとに条件を変えて考える場合がある。

具体的な数値で課題を解決した後、一般化したり、条件を変えたりして、さらに学習を深めたり、広げたりすることが大切である。

【図１】

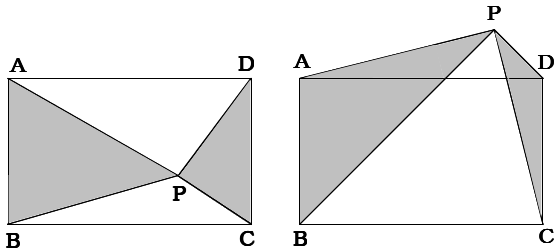


ただし、点Ｐは対角線AC、BDの交点

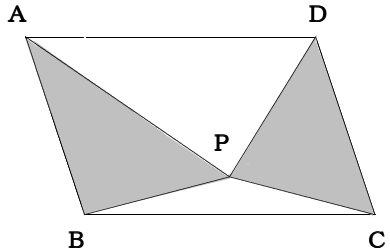
例えば、【図１】の長方形 ABCD で　　の部分の面積の和は、もとの長方形 ABCD の面積の半分になることを証明した後に、【図２】や【図３】などのように、点 P の位置が変化した場合やもとの図形が変化した場合にどうなるかを、発展的に考えたりすることができる。

教科書や教材の問題に工夫を加え、教師自身が楽しみながら授業づくりをすることが大切である。

【図２】点Pの位置を変える



【図３】四角形ABCDを平行四辺形に変える



＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

○　証明や説明をよみ、その結果を振り返って深めたり、広げたりして、新たな性質を見つけ、それを説明できるようにする。

○　条件を変えたり、考察の範囲を広げたりして、発展的に考える視点を具体的に示すようにする。

◇　教師や友達の証明や説明をよみ、代わって自分なりに説明する活動を設定する。

中学校　数学科　学ぶ意欲の向上

【改善のポイント】

ー数学を学ぶことの楽しさや有用性を実感できるー

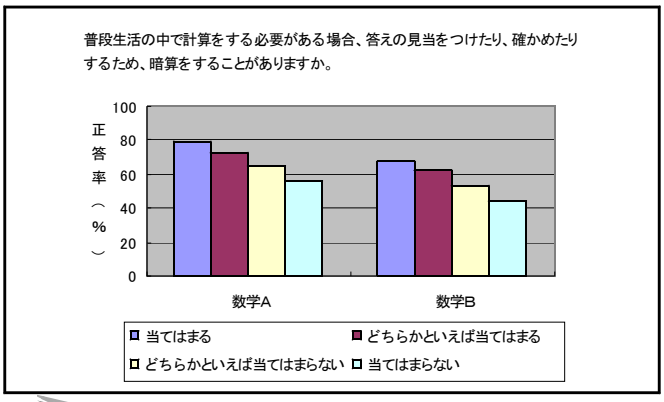
１時間の授業が終了したときに、生徒に何がわかったのか、何ができるようになったのかをしっかりと自覚させることが大切である。

知識・技能を習得させる授業ではもちろん、知識・技能を活用する授業を仕組んだ際も、どのような考え方が課題解決に役立ったのかをしっかり教え、しっかり引き出す授業にすることが必要である。

また、日常生活や自然現象において、関数的な見方や考え方が結果を予想するのに役立ったり、文字を使った式の計算が具体的な数値の計算に役立ったりすることなどを実感できるようにすることが大切である。

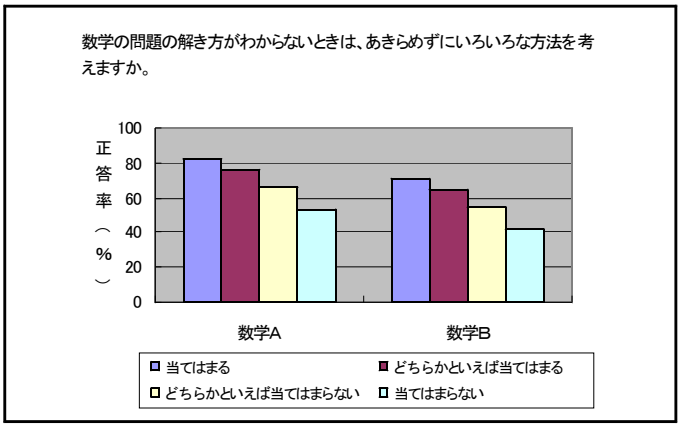
さらに、実験や実測などの数学的活動を通して、生徒同士が学び合う授業を仕組むことは、学びの質を大きく高め、学習の楽しさや奥深さを感じさせ、様々な事象への新たな関心・意欲等を引き出すものといえる。

数学科は、考え方を学ぶ教科である。そのために、課題が明確でわかりやすく、多様な考え方が期待できる題材を準備することや、だれもが遠慮なく自分の考えを発表でき、それをじっくりと聞くことができる学習環境をつくることが大切である。



数学科の授業以外でも数学を活用しようとする態度の育成を！

粘り強く考えようとする生徒の育成を！



※グラフは本県の状況

＜指導にあたって＞　「○」：調査結果を踏まえた授業改善のポイント、「◇」：日々の授業改善のポイント

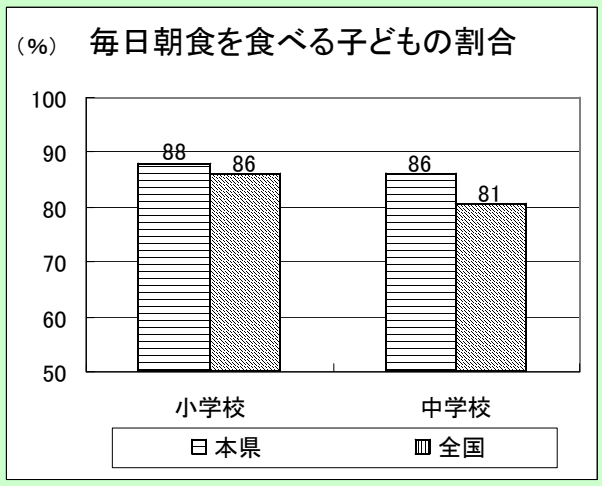
○◇　学習して身に付けたものを、日常生活や他教科等の学習、より進んだ数学の学習へ活用できることを実感できるようにする。

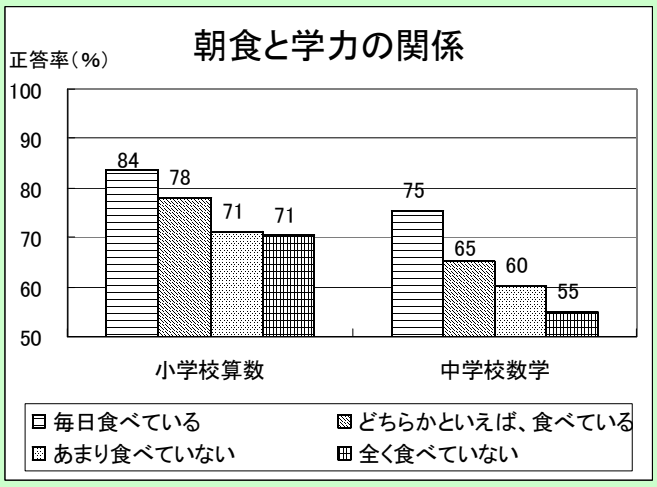
○◇　本時の学習を振り返り、新しく学んだ知識や技能、考え方を明確に整理し、理解の広がりや深まりなど学習の進歩を実感できるようにする。

望ましい学習習慣・生活習慣が学力の向上には大切です！

～全国学力・学習状況調査における本県の子どもの集計結果より～　　（平成１９年４月２４日実施）

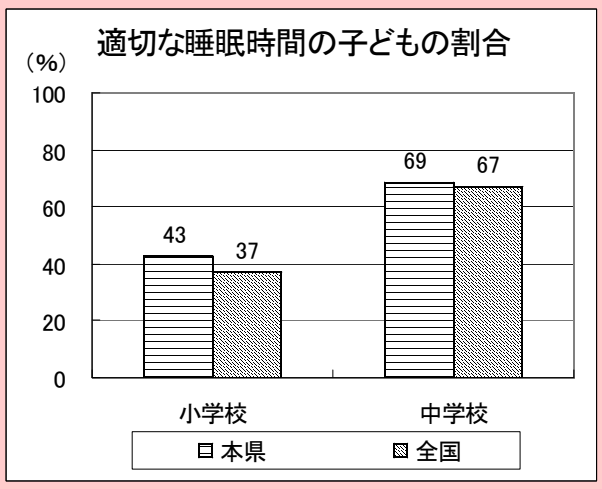
１　「朝食を食べる」子どもは正答率が高い傾向にあります。

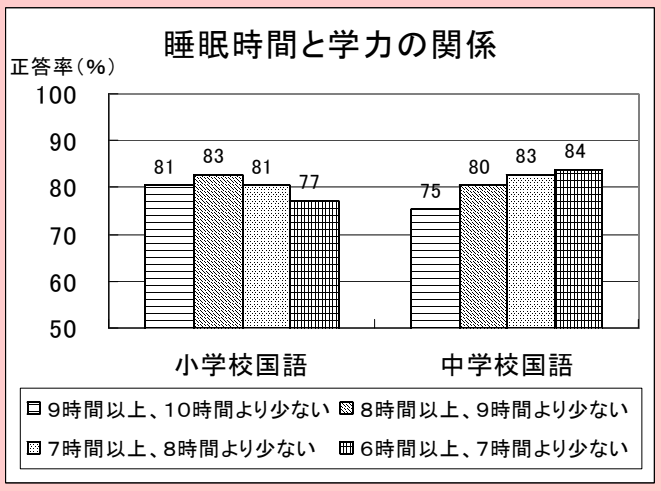




○「毎日朝食を食べている」子どもは小学校で８８%、中学校で８６%でした。
○学力調査の中学校数学Ａの問題で、「毎日朝食を食べている」と答えた子ども(75%)と「全く食べていない」と答えた子ども(55%)では、正答率に２０ポイントの差が生じています。

２　「適切な睡眠時間」の子どもは正答率が高い傾向にあります。



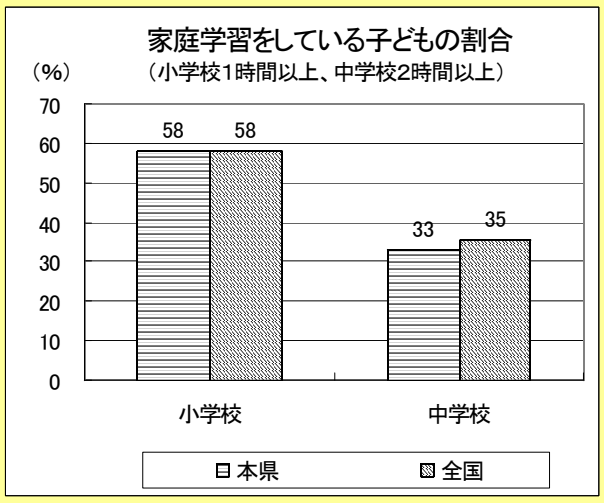


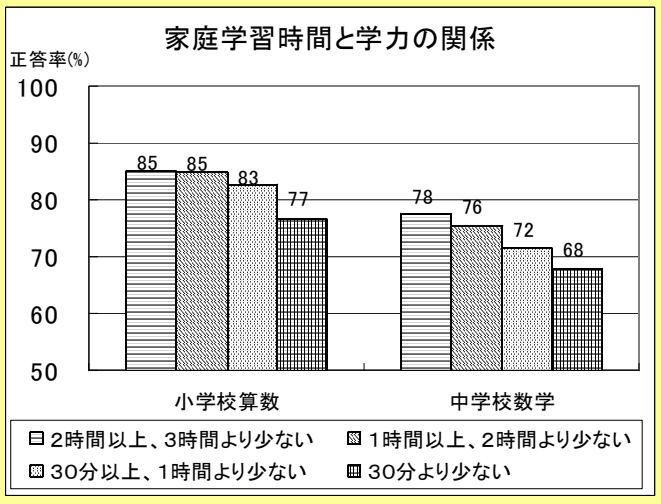
○小学校では睡眠時間が８～９時間の子どもが４３%で、中学校では6～8時間の子どもが６９%でした。
○小学校では睡眠時間が８～９時間(83%)、中学校では睡眠時間が６～７時間(84%)の子どもの正答率が最も高くなっています。

適切な睡眠時間のめやす

小学生　　８時間～９時間
中学生　　６時間～８時間

３　「家庭学習の習慣が身に付いている」子どもは正答率が高い傾向にあります。



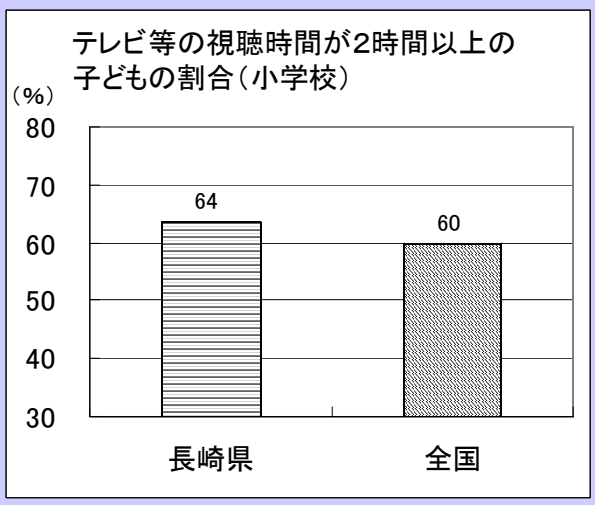


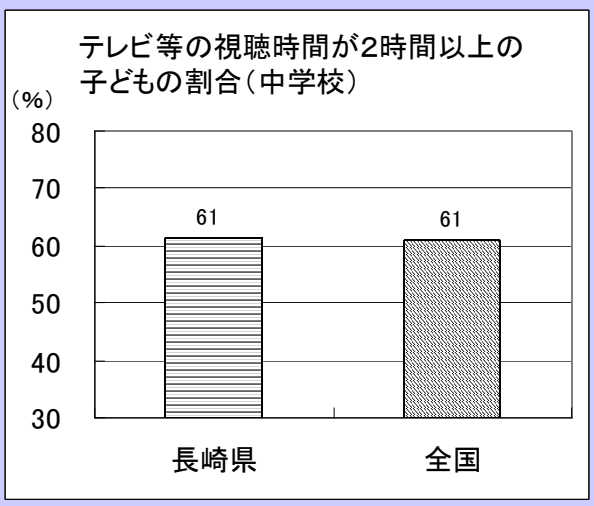
○家庭学習時間は、小学校では１時間以上の子どもが５８%、中学校では２時間以上の子どもが３３%でした。
○小学校、中学校とも家庭学習の時間に応じて正答率が高くなっています。

家庭学習時間のめやす

小学生（１日平均）		中学生（１日平均）	
低学年	30分~1時間	１学年	2時間~2時間半
中学年	1時間~1時間半	２学年	2時間~2時間半
高学年	1時間半~2時間	３学年	2時間半~3時間

４　テレビやビデオ、DVD等を２時間以上視聴している子どもの割合は６０%を超えています。





○「テレビ等の視聴時間が２時間以上」と答えた子どもは、小学校では６４%、中学校では６１%でした。
○「テレビ等の視聴時間が２時間以上」の子どもは、全国平均と比較しても小学校では４ポイント上回っています。

小・中学生のメディア使用時間のめやす

１日　１時間～２時間以内

長崎県検証改善委員会委員

代表	長崎県教育会	主事	小田恒治
委員	長崎大学教育学部	教授	平岡賢治
委員	長崎南高等学校	校長	市原正博
委員	時津町立鳴北中学校	校長	山津和則
委員	佐世保市立愛宕中学校	校長	近藤真
委員	西海市立西彼北小学校	校長	関志保
委員	新上五島町立今里小学校	校長	森澤宏
委員	長崎市立三和中学校	保護者	峰俊典
委員	諫早市立長里小学校	保護者	秀島はるみ
委員	長与町教育委員会	教育次長	黒田義和
委員	長崎県教育センター	教育経営課長	一瀬薫
委員	長崎県教育庁義務教育課	課長	江頭明文
経理責任者	長崎県教育庁義務教育課	参事	長谷川哲朗
情報セキュリティー総括責任者	長崎県教育庁義務教育課	課長補佐	西村一孔

「伸びる子どもに！！」

－全国学力・学習状況調査の結果から－

【日々の授業改善に向けて】

平成２０年１月印刷・発行

長崎県検証改善委員会

長崎県教育委員会

【所在地】〒 850-8570 長崎市江戸町 2-13

【電　話】義務教育課 095-894-3373

【F A X】 095-894-3474

【E-mail】s40110@pref.nagasaki.lg.jp

本冊子は、義務教育課ホームページからデータをダウンロードすることができます。
自校の改善プラン作成や保護者への啓発ちらし作成に御活用ください。
　アドレス：http://www.pref.nagasaki.jp/gimu/index.html